

# 哲学してみよう

- 自由・教育・愛の本質 -

# 目次

1. はじめての哲学的思考
2. 哲学的思考の基礎 - 弁証法 -
3. 哲学的思考その1 自由の本質
4. 哲学的思考その2 教育の本質
5. 哲学的思考その3 愛の本質
6. まとめ

# 1. はじめての哲学的思考

# そもそも哲学とはなにか？

哲学（てつがく）とは、語弊を恐れずにわかりやすく言えば「真理を探究する知的営み」のことです。

世界の根源や本質を見極めるための知的探究的な取り組み、および、その知的探究を方法的に進めるための学問です。

weblio辞典 (<https://www.weblio.jp/content/%E5%93%B2%E5%AD%A6>)

## ※本質 ≠ 絶対的真理

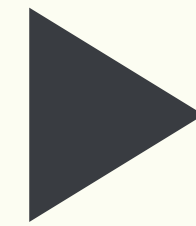
この世の「絶対的真理」なんて（分から）ないが、「ここまでなら誰もが納得できるにちがいない」という地点（共通了解）までならたどり着くことができる。

哲学とは、ものごとの「共通了解」を見出す営みである。

# なぜ哲学が必要なのか？

## 身の回りのさまざまな課題

- ▶ 「経済的发展」か「環境保全」か
- ▶ 「大きな政府」か「小さな政府」か
- ▶ 「自己責任」か「相互扶助」か
- ▶ 「均質教育」か「個性尊重教育」か
- ▶ 「企業の利益」か「社会貢献」か



正解は無い。  
でも考える必要はある。

正解の無い課題に答えを出す（「**共通了解**」を見出す）  
ために、哲学的な考え方が必要。

# 哲学的思考、その前に

## 1. 「一般化」しない

自分の経験を一般化して結論を導かない。

例) 子ども3人を東大に入れた母親の教育指南本

## 2. 「問いの立て方」を変える

「どちらが正しいか？」という問いの立て方をしない。

例) 人間が生きる意味はあるか? → 人間が生きる意味を感じるのはどのような時か?

哲学は「**共通了解**」を見出す営みであることを忘れない。

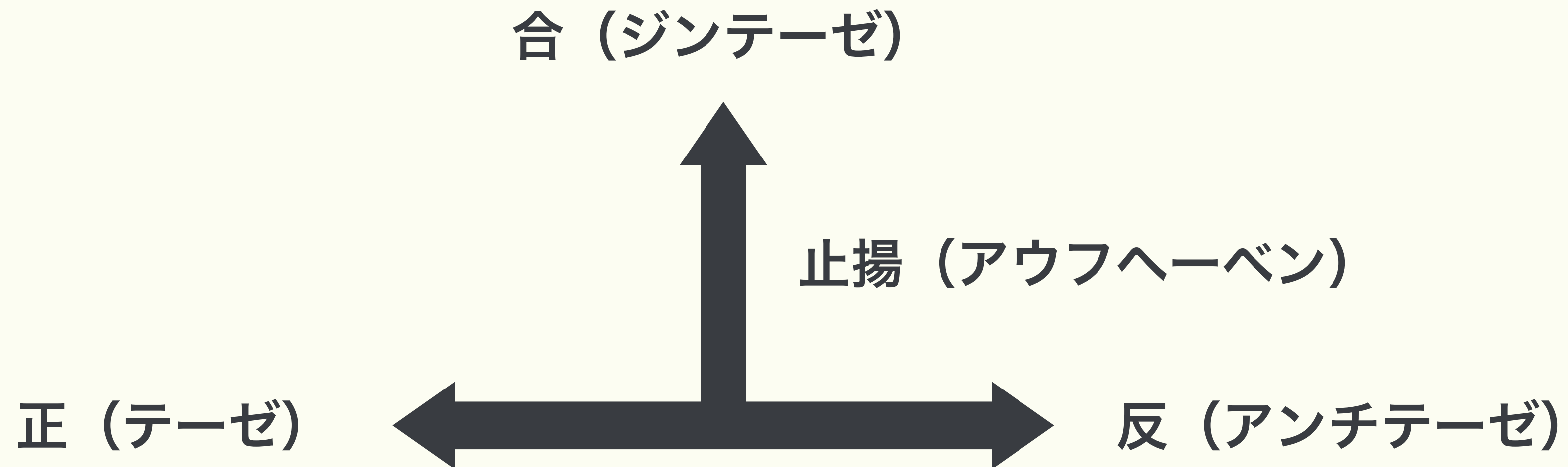
## 2. 哲学的思考の基礎 - 弁証法 -

# 弁証法とはなにか？

対話・弁論の術を意味し、ソクラテス、プラトンでは真の認識に至る方法とされた。（中略）

ヘーゲル哲学では、形式論理学よりも積極的・具体的なものとして解され、正・反・合の段階を経ることによって矛盾を止揚して高次の認識に至るべき思考形式とされた。

コトバンク (<https://kotobank.jp/word/%E5%BC%81%E8%A8%BC%E6%B3%95-131205>)



矛盾を解消し、より高次の認識に至るための思考方法。



# 弁証法の具体例



「外遊び」と「家遊び」という矛盾を統合している。

# 3. 哲学的思考その1 自由の本質

# 自由＝なんでもできること？

世間ではよく、およそ自由とはなんでもやりたいことをやることができるということだと言われている。  
だが、そのような表象はまったく思想の形成ないし教養を欠いているものとしか解されえない。

ヘーゲル『法の哲学』

## なぜか？

私たちが複数の「欲望」を持っているから。

「それらの衝動や傾向はたがいにさまたげ合い、そのどれか一つのものの充足は他のものの充足を下位におくこと、ないしは犠牲にすることを必要とする。」

例) 痩せたい けど 努力はしたくない

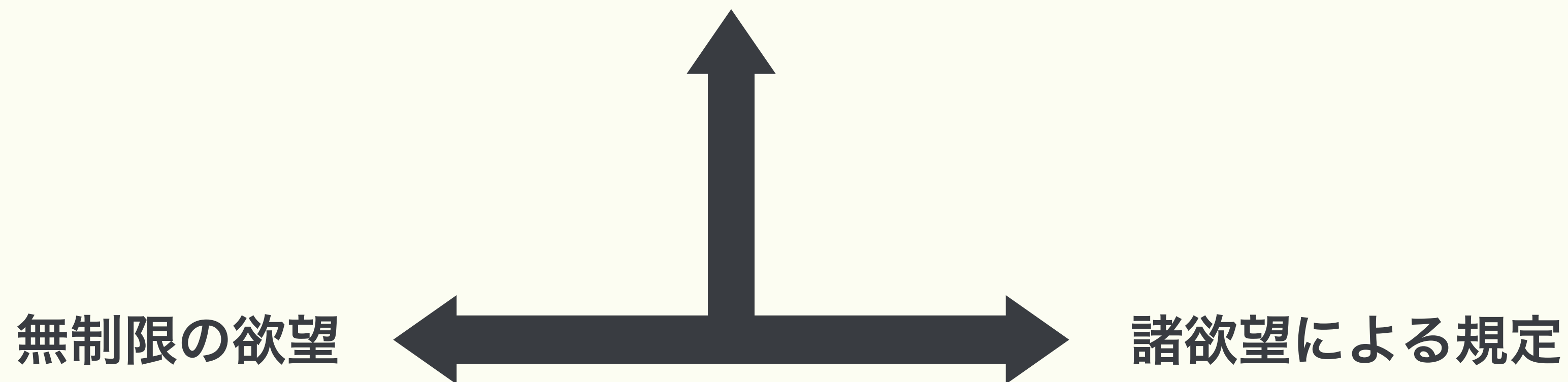
私たちは「欲望」によって規定されている。

# 自由の本質

自らが自らの諸欲望に規定されているということを十分自覚した上で、それでもなお、自らの意志を持って自己決定し自己選択しうるというところに、私たちは初めて <自由> の本質を手にすることができるようになる。

苦野一徳『どのような教育が「よい」教育か』

自らの意志による自己決定・自己選択



「我欲する」を「我為しうる」へと転換させうるところに  
<自由> は存在する。

# 4. 哲学的思考その2 教育の本質

# 自由の相互承認の原理

自らが十全に <自由> たりうる唯一の社会原理、それは、互いに他者が <自由> な存在であることを認め合う、<自由の相互承認> の理念のほかあり得ない。

苦野一徳『どのような教育が「よい」教育か』

## 「自由の相互承認の原理」の実質化

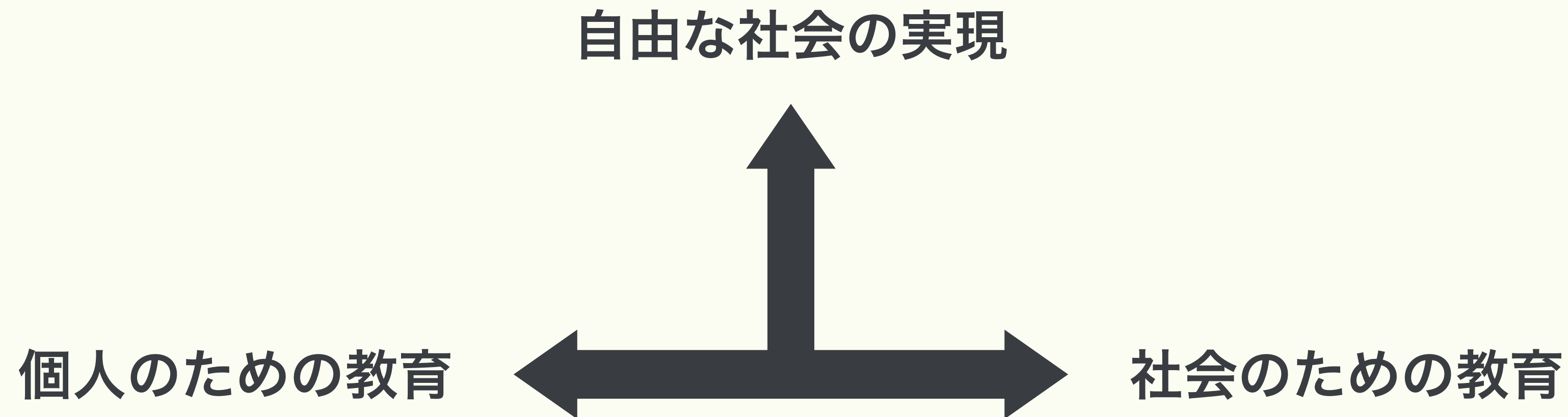
- ▶ 「法」の設定：法と権力による <自由> の**理念的**な保証
- ▶ 「教育」の整備：教養＝力能を育むことによる <自由> の**実質的**な保証

自由な社会を実現するために、「教育」は必要不可欠。

# 教育の本質

## 「教育」の意義

- ▶ 「個人」にとっての意義：教養＝力能の育成・＜自由の相互承認＞の理解
- ▶ 「社会」にとっての意義：＜自由の相互承認＞の実質化



各人の＜自由＞および社会における＜自由の相互承認＞の  
＜教養＝力能＞を通じた実質化。

# どのような教育が「よい」教育か

すべての人の <自由> を促進する教育が「よい」教育である

公教育はすべての人が社会の中で「生きたいように生きられる力」を育む必要がある。

これからの時代に必要な教育は？

- ▶ 学びの個別化：個人の興味・関心に沿った学習
- ▶ 学びの共同化：生徒同士の「学び合い」を通じた学習
- ▶ 学びのプロジェクト化：課題探究・課題解決の経験を通じた学習

3つの教育方針を融合させることで、  
これからの時代に必要な「**学び続ける力**」を育む。



# 5. 哲学的思考その3 愛の本質

# 愛の本質

愛によって、人は孤独感・孤立感を克服するが、依然として自分自身のままであり、自分の全体性を失わない。  
愛においては、ふたりがひとりになり、しかもふたりでありつづけるというパラドックスが起きる。

エーリッヒ・フロム『愛すること』

## 愛の本質契機

- ▶存在意味の合一：相手の存在によってわたし自身の存在意味が充溢するという確信
- ▶絶対分離的尊重：相手をわたしのエゴイズムに回収しないという意志

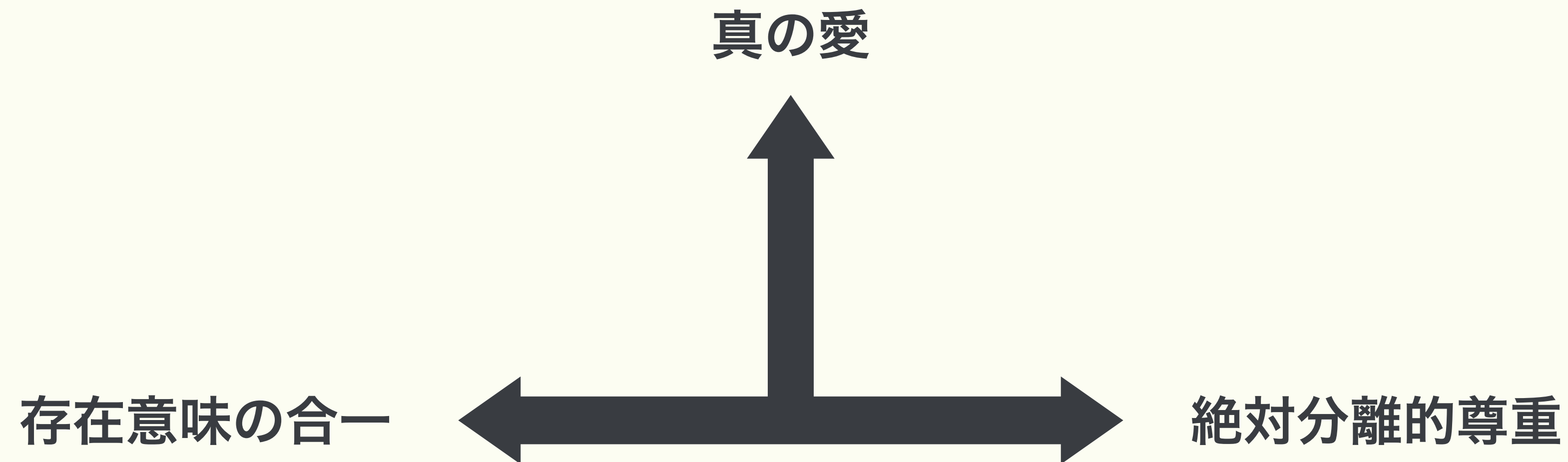
真の愛の本質は、  
「存在意味の合一」と「絶対分離的尊重」の弁証法。

# 愛するために

愛は能動的な活動であり、受動的な感情ではない。

そのなかに「落ちる」ものではなく、「みずから踏みこむ」ものである。

エーリッヒ・フロム『愛すること』



真の愛は強い「意志」ゆえに成立する。

## 6. まとめ

# まとめ

## ▶ 哲学とは？

哲学とは、ものごとの 「共通了解」 を見出す営みである。

## ▶ 弁証法とは？

弁証法とは、矛盾を解消し、より高次の認識に至るための 「思考方法」 である。

## ▶ 自由・教育・愛の本質

さまざまな矛盾を乗り越えた先に、自由・教育・愛の本質は存在する。

哲学的思考こそが、＜自由＞に生きるためのカギである。

# 参考書籍

# 参考書籍

- ▶ 田坂広志 『使える弁証法』
- ▶ 田坂広志 『未来を予見する「5つの法則」』
- ▶ 苫野一徳 『はじめての哲学的思考』
- ▶ 苫野一徳 『どのような教育が「よい」教育か』
- ▶ 苫野一徳 『教育の力』
- ▶ 苫野一徳 『「学校」をつくり直す』
- ▶ 苫野一徳 『愛』
- ▶ 飯田史彦 『愛の論理』
- ▶ エーリッヒ・フロム 『愛するということ』